



1

令和2年度 akta活動報告会
2021年6月13日(日) 14:00 - 15:00

目次

1. 司会から注意事項のお知らせ
2. 開会の辞
3. アウトリーチプロジェクト
4. community center akta
-MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営
5. Living Together
- HIVのリアリティを伝えるプログラム
6. ウェブサイトを用いた啓発
7. HIV検査普及プログラムと行政連携
8. 調査・研究
9. コロナ対応のポイント
(すべてのプロジェクトから振り返り)
10. 閉会の辞

2

開会の辞

岩橋恒太

3

アウトリーチプログラム

藤原孝大

4

DELIVERY HEALTH PROJECT

目的：定期的に情報を届けてaktaの周知と普及啓発を行う



資
材
発
送

516ヶ所へ届ける、516ヶ所からの情報発信

新宿2丁目

ゲイバー169店舗

毎週金曜日

(第3週を除く)

MSMが集まる商業施設に

顔と顔を合わせた定期的アウトリーチ

現在、新宿・大久保・上野・浅草・池袋・新橋・渋谷等の商業施設は
郵送で対応

ゲイバー67件/性風俗店 25件/ポルノショップ 8件

全国

MSMを取り巻く環境

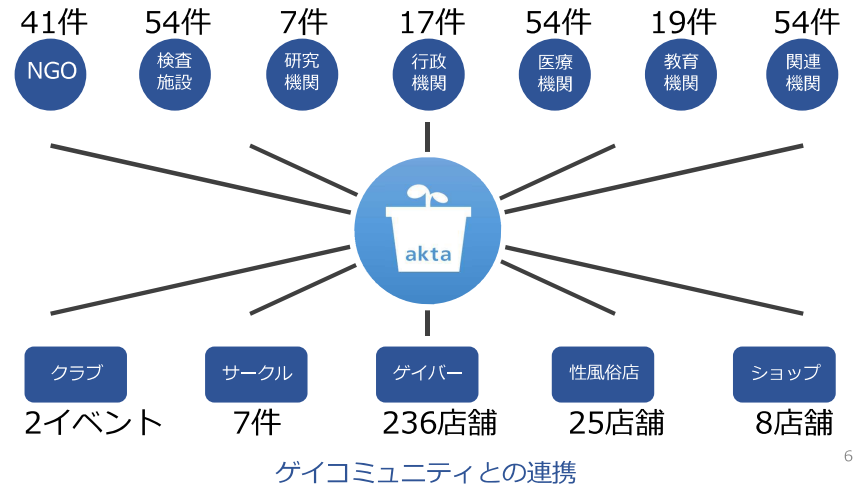
毎月月末土日

行政機関 17件/議員5名/教育機関
19件/医療機関 54件/研究機関 7
件/保健所 54件/HIV関連NGO 13
件/セクシャリティ関連NGO 15件
/制作関係者 17件/センター10件
/メディア関連 10件/企業 13件/
その他 13件

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

啓発普及の基点（連携のハブ）

HIV関連機関との連携



6

— 資材制作 —

akta monthly schedule

プログラムの目的：community center aktaの周知と、DELIVERY BOYSの配布店舗へのインタビュー記事を通し、活動をはじめ、HIVや性感染症へのイメージや二丁目のコミュニティ感覚について考えるキッカケづくりとして発信するフリーペーパー。(2017年4月より配布開始、BARインタビューは2017年8月よりスタート)

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、政府による緊急事態宣言の発出により、2020年4月号～7月号までは印刷を控え、ウェブ上でのみの発信に留めた。

ウェブ版

2020年4月号 5月号 6月号 7月号

特別号

特別号では新型コロナウイルスの影響についてインタビューを行った。

紙面版

2020年8月号～2021年1月号までを発行した。

オンライン配信したセンター長交代の挨拶をテキスト化!

発行部数：2020年8月号～2021年3月号まで各号5000部 発行、配布
配布先：新宿二丁目のBAR&クラブ/169店舗 その他商業施設(BAR&ゲイ向け性風俗店&ポルノショップ)/79店舗 保健所/54施設 クリニック14施設、行政・教育・医療・研究機関等/87施設
HIV関連NGO/23施設 その他/69施設

— 資材制作 —

デリヘルくんが聞く！突撃インタビュー！！(冊子)Vol.2

プログラムの目的：「akta monthly schedule」内にて2017年8月より掲載している「デリヘルくんが聞く！突撃インタビュー！！」をまとめた冊子の第2弾として、2019年4月号～2020年12月号までの内容を、情報を追加したリメイク版を作成する事で、更なるaktaの周知と、コミュニティとの連携を強める。またHIV検査について取り扱い、検査行動促進へとつなげる。

今回は通常のインタビューの他、新型コロナウイルスに関するママさんのインタビューや、aktaセンター長交代の挨拶など、通常のインタビューにはない項目も追加されています。

インタビュー

目次が二丁目のマップになっています。

検査行動促進

また、HIV検査の新常識「8つのポイント」や、大幅更新した「HIVマップ」の情報を紹介した特集ページも追加!

二丁目遊ぶこと、セックスをすることと同時に性的健康についても考えてもらえる1冊となるよう、心がけて作成しています。

発行部数：2021年1月に2000部 発行、配布
配布先：新宿二丁目のBAR&クラブ/169店舗 その他商業施設(BAR&ゲイ向け性風俗店&ポルノショップ)/79店舗 保健所/54施設 クリニック14施設、行政・教育・医療・研究機関等/87施設
HIV関連NGO/23施設 その他/69施設

デリバリーボーイズ

プログラムの目的: セーフアセックスを身近に感じてもらうと共に、HIV/AIDSについて話す機会を提供する。また情報を届けると共に、街や店内の雰囲気や反応をキャッチしてこくる。
対象となる人や施設: 新宿二丁目を中心としたゲイバーやクラブの顧客と従業員。
 また、参加するボランティアスタッフも対象となる。

実施内容
 毎週金曜日に、お揃いのユニフォームを着て、新宿二丁目を中心としたゲイバーやクラブにコンドームをはじめとした性の健康に関する様々なアイデアを配布(アウトリーチ)する活動です。
 ※新型コロナウイルス感染症の流行を受け、マスクの着用・実施前の検温・消毒(活動中も適宜消毒)を行い、感染症対策を施し実施した。

コンドーム配布数
 (2020年4月~2021年3月末まで)
 年間13,865個 1回約500~1000個配布。
 稼働日数: 16日 ※ポスティングを含む

今年度作成した、コンドームパッケージ

アウトリーチ方法の模索
 緊急事態宣言期間中など、直接のアウトリーチができない際のアウトリーチ方法として、ポスティングやLINE公式アカウントの開設等を行った。

ポスティング: 110/169店舗
 LINE登録者数: 33名

実施日時: 毎週金曜日(第三金曜日を除く)の20時~22時
登録者数: 125名(内毎回10~20名前後のスタッフが参加)
配布店舗数: 169店舗

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、隔週(第2・第4金曜日)へと変更した。また政府による緊急事態宣言の発出期間中は活動を休止した。

デリバリーボーイズ・ボランティア向け研修会

プログラムの目的: 活動に参加するボランティアを対象に、HIV/エイズの基礎知識や、ワークショップ等の研修会を開催することにより、知識と意識の向上を図る。またスタッフ同士の交流や意見交換を行い、より一歩ステップアップした活動を目指す。
 ※新型コロナウイルス感染症の流行を受け、センターや会場にボランティアスタッフを集めての実施が困難のため、Zoomを利用したオンライン上での以下プログラムに変更し実施した。

オンライン研修会
 実施日: 2020年9月4日
 講師: 笹井アスカ氏 (Viivヘルスケア)
 実施内容: 「HIV陽性者にとつてのU=Uのインパクト、知ることの重要性」について、HIV陽性者を対象とした海外でのWEB調査の報告から学んだ。参加者からは、多くの人がU=Uの知識を持つことの重要性と、ゲイコミュニティの中で情報が広まることについて語られた。

デリヘルHR(ホームルーム)
 実施内容: デリバリーボーイズの近況、性行動、コロナ禍における生活の変化(仕事、学業、家庭)について話し合った。
 また、勉強会開催前や資料完成時はそのテーマに沿った情報共有(U=UやPrEP、コロナ禍のセーフアセックス)を行い、デリバリーボーイズのコードを把握した。
 活動が行えない中で、顔を合わせた場を設けることで、モチベーションの低下を防いだ。また、参加したメンバーからは近況はもちろん、セックスに関する話など、普段できない話ができたとの感想もあり、話しやすい空間の提供へとつながった。

実施日: 2021年2月19日 (東京都と共同開催)
 講師: 上村悠先生、高野操先生(国立国際医療研究センター エイズ治療・開発センター/SH外来)
 実施内容: PrEPの自己輸入をはじめ、周囲でも聞かれるようになってきた中で、正しい知識や動向について学んだ。

実施日: 基本第1・第3金曜日
 参加人数: 4人~8人/1回(全18回)

オンラインという特性を活かし、普段は参加が難しい東京以外の地域からも多く参加があり、様々な意見交換のキッカケとなった。

community center akta
 -HIV/AIDSの総合的な情報の集約と発信

木南拓也

— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

コミュニティセンター akta

東京都新宿区新宿2-15-13第2中江ビル301
 東京メトロ丸ノ内線・副都心線・都営新宿線 新宿3丁目駅から徒歩3分
 開館時間: 16:00 - 22:00(月・火・水曜、年末年始除く)

※新型コロナウイルス感染症の流行を受け、開館日時が流動的となった。

スタッフ: 常勤3人、非常勤9人、ボランティア: 125人



(2020年4月から2021年1月まで)
 総来場者: 1078人 (前年度比19.7%)

初来場者: 182人 (前年度比11.7%)

稼働日: 141日

相談件数: 111件

(2003年9月から2021年1月まで)
 累計来場者数: 129,602人

6月:
 木~日 16:00 - 20:00
 7月~12月:
 木~日 16:00 - 22:00
 1月~3月:
 金・日 15:00 - 19:00

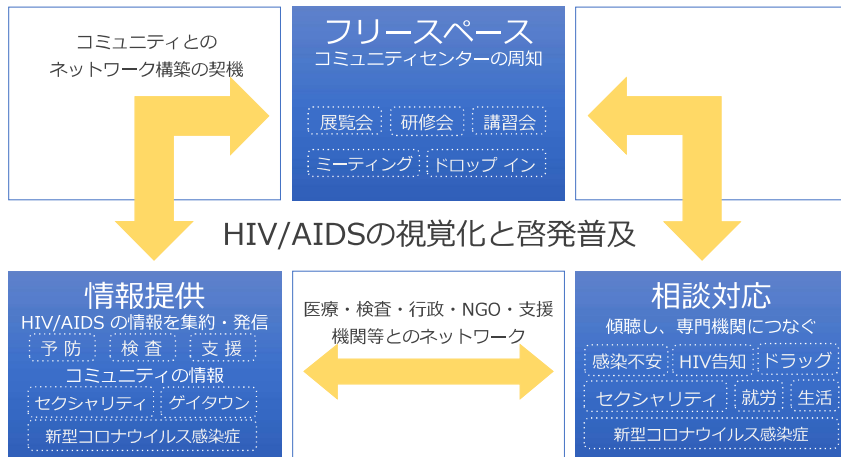
4月~5月は政府による緊急事態宣言の発出により臨時休館とした。

令和2年度「同性愛者等向けコミュニティセンターを活用した広報等一式事業(厚生労働省委託事業)」を公益財団法人エイズ予防財団が受託し、新宿区新宿二丁目にあるセンターの運営をaktaが行っている。

約300軒の商業施設が密集するアジア最大のゲイタウン“新宿2丁目”で
 ゲイコミュニティの中から、ゲイコミュニティに向けて普及啓発。¹²

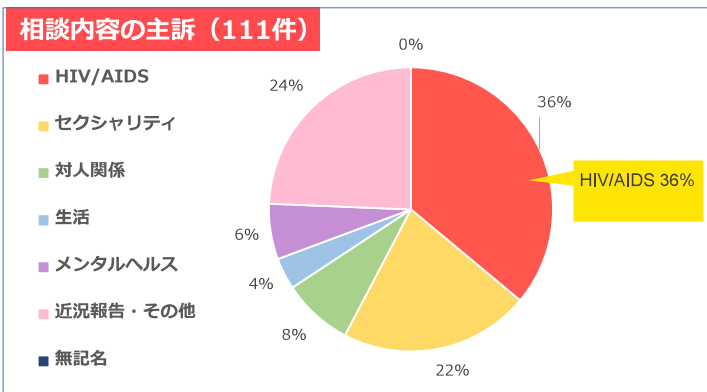
— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

コミュニティセンターの機能



相談対応

セクシュアリティに理解のあるスタッフが
オープンスペースで対応し、支援リソースへつなぐ。



— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

開館するにあたっての新型コロナウイルス感染症対策

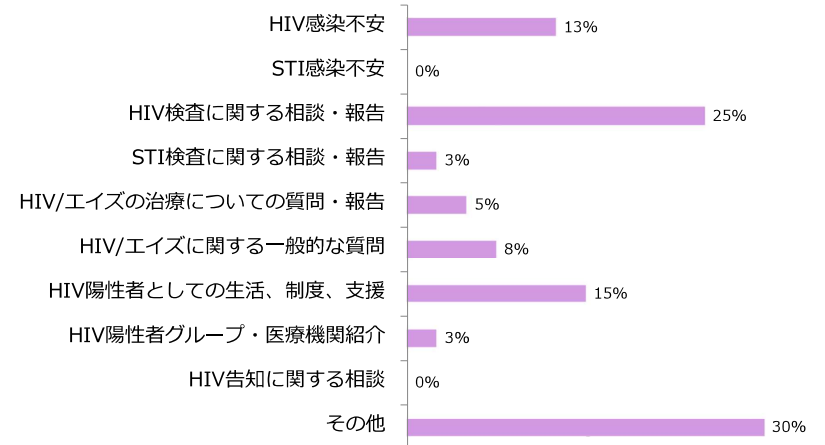
- スタッフによる感染対策
- ・出勤前の検温と体調報告・出勤のチーム分け
 - ・マスクの常時着用
 - ・手洗いうがいの徹底
 - ・手指のアルコール消毒
 - ・定期的な館内消毒と換気
 - ・緊急時対応のマニュアル作成とシミュレーション

- 利用者への感染対策
- ・入館前の体調確認
 - ・検温と手指のアルコール消毒
 - ・マスクの常時着用
 - ・連絡先登録のお願い(任意)

他、館内のレイアウト等を変更し感染症対策に努めた。

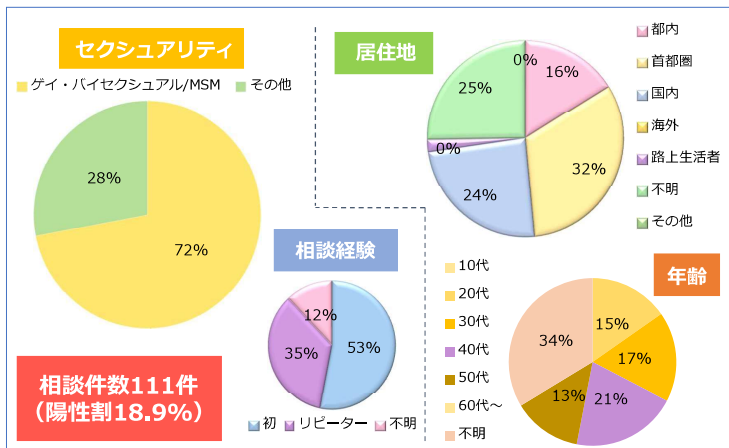


HIV/エイズに関する相談の主訴
(40件の内訳)



— MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営 —

相談者の属性



17

スタッフ相談対応研修会

akta相談事例を基に、4つのテーマに沿って専門家を講師として招き、研修会を実施した。スタッフの対応の平均化や底上げを行い、チームで対応の質の向上を図った。

- ①「U=U」について～HIV感染者のQOL(生活の質)に影響を与えるものは何なのか?～
実施日：9月4日 講師：笹井アスカ氏 (ViiVヘルスケア)
実施内容：デリヘル勉強会と同時開催。HIV陽性者を対象としたWEB調査の報告を聞き、意見を共有した。
- ②ソーシャルワーク～貧困～
実施日：9月24日 講師：加藤歩氏 (NPO法人自立サポートセンターもやい)
実施内容：貧困支援の専門家から貧困の実態、生活を支える制度、生活保護利用の実際、ハードルなど貧困に関する多岐にわたる話を聞いた。
研修終了後は、akta利用者の貧困相談対応、限界設定について話し合った。
- ③ハームリダクション
実施日：11月19日 講師：古藤吾郎氏 (ソーシャルワーカー・日本薬物政策アドボカシーネットワーク NYAN 事務局長)
実施内容：ハームリダクションの説明、成り立ちを聞き、この概念が重視しているポイントを聞いた。また、海外の薬物使用施設の紹介、動画を視聴した。ロールプレイもを行い、aktaの相談支援でハームリダクションの考え方を取り入れる方法を話し合った。
- ④HIV陽性者対応
実施日：3月11日 講師：加藤力也氏 (ぶれいす東京)
実施内容：ぶれいす東京の団体紹介～HIV陽性者のピアグループミーティングに関する情報を聞き、情報のアップデートを行った。
緊急事態宣言下での実施ということもあり、Zoomを用いて講師からの説明を聞き、参加者からの質問に答えてもらう形式となった。

19

2020年の活動状況

New!相談機会の提供

「場」をひらき、コミュニケーションすることが難しい現状の中で、HIVやセックス、セクシュアルヘルス等の話をできる機会を模索した

①リモート電話相談 (緊急事態宣言で休館中に期間限定)
木・土曜 17:00-20:00 無料・匿名 相談件数: 1件
※固定のaktaスタッフが自宅にて携帯電話で対応
メール相談が通常より増加。公式LINEの開設によりオンラインでの相談が微増

②ゆうそう検査キットの配布に伴う専門相談
無料・予約制 検査キットを受け取った人限定
2月22日(月),3月1日(月) 16:00-19:00
相談件数: 4件 (各日2名) 相談員: 1名

③moyamoya aktaで話そう、聞いてみよう
3月5日(金) 16:00-19:00 無料・予約制 相談員: 2名
相談件数: 3件 (事前予約: 2名、当日: 1名)
対面相談とaktaからZOOM相談を実施



18

MSMを対象とするエイズ対策拠点の運営

新規来場者を増やして、情報にアクセスする機会を提供する

コロナの影響でイベントや展示の開催機会は減少したが、ニーズがあった

akta主催展覧会
「U=U 2020 HIVの新常識を知ろう」
11月26日(木)-12月25日(金)
来場者数: 64人

- ・世界エイズデーに向けてキャンペーンと同時開催
- ・期間中12月19日(土)にオンラインTalkShow開催
- ・プライドハウス東京レガシーと同時開催
- ・TOKYO AIDS WEEKS 2020に参加

協力: NPO法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス、認定NPO法人ぶれいす東京、ワイフヘルスケア株式会社

S.オニクボ 写真展
「顕現・apparition」
11月5日(木)-11月15日(日)
来場者数: 76人

「SEEX 23 春画解説本鑑賞会」
主催: セックスミュージアム設立準備委員会
9月26日(土)
来場者数: 8名

- ・その他展覧会は来年度に延期開催予定
- ・「AAセクシャルマイノリティ・グループ」「中国語教室」等の利用があった

20

連携によるコミュニティへの情報発信

10月11日(日)
「プライドハウス東京レガシー」@新宿御苑前
オープニングイベントに参加
コンソーシアムメンバーとして挨拶、地域連携



11月12日(木)
任意団体「すこたんソーシャルサービス」
と意見交換会を実施、他地域での連携



NOT ALONE CAFE
毎月第一日曜日@二丁目
DRAGONにて有志で開催
日本に来て間もない
ゲイ・バイ男性のための
居場所作りcafé
※2020年はオンラインを
中心で開催

community center akta



aktaのセンターパンフレット
を一新。二ヶ国語対応へ
(5,000部印刷)



11月27日(金)~12月25日
(金)
第34 回日本エイズ学会
学術集会・総会
オンライン開催
ブース出展および発表

New!akta オンラインtalk show (東京都委託事業)

プログラムの目的: コミュニティへの情報共有、意見交換、普及啓発
対象なる人や施設: コミュニティの人たち、商業施設のオーナーやスタッフ、aktaボランティアスタッフ、HIVに関連した活動をしている人たち、LGBTs

実施内容:
9月27日(日) akta Talk Show 「最近、セックスどう? -コロナ禍におけるセックスについて-」

出演者: 古藤春郎 (ソーシャルワーカー/NYAN (日本薬物政策アドボカシー
ネットワーク) 事務局長 司会: マダム ボンジュール・ジャンジ, KD (akta)
ライブ視聴数: 約30名 ※aktaチャンネルからLIVE配信

12月19日(金) akta Talk Show 「専門家に聞こう!」
U=Uキャンペーンとはなにか? これまでとこれからのHIV/エイズの
取り組み

出演者: 井上洋士(順天堂大学大学院 教授/Futures Japanプロジェクト 代表)
四本美保子(東京医科大学病院 医師/厚労科研「HIV感染症及びその合併症の課題
を克服する研究班」研究分担者), 木南拓也(akta) 司会: 岩橋恒太(akta)
※aktaチャンネルからLIVE配信 視聴数: 210回 アーカイブ視聴数: 240回(3/13)

2月19日(金) 「NGO・NPO スタッフ向けPrEP勉強会」

講師: 国立国際医療研究センター エイズ治療・開発センター(ACC) / SH外来
上村悠(医師)、高野操(看護師) 司会: 岩橋恒太 (akta) 参加者19名
※ZOOMを使用してオンライン開催

3月 「ヒューマンアーカイブ 長谷川博史さん」

ゲスト: 長谷川博史 (NPO法人ジャンププラス理事)
コメンテーター: 生島嗣(認定NPO法人ふれいず東京 代表), 松中権(認定NPO法人
グッドエイジングエールズ 代表) 司会: マダム ボンジュール・ジャンジ(akta)
共催: プライドハウス東京 ※aktaチャンネルから配信 視聴数: 165回(公開4日後)



Living Together - HIVのリアリティを伝えるプログラム

荒木順(ジャンジ)

WE'RE
ALREADY
LIVING
TOGETHER.

HIVを持っている人も、
そうじゃない人も、
まだ分からない人も。
わたしたちはすでに、
いっしょに生きている。
WE'RE ALREADY
LIVING TOGETHER.

これまでの取り組み（2006年～2020年2月） 「Living Togetherのど自慢」



新宿二丁目の老舗ゲイバーを拠点に年4回イベントを開催
 内容：多様な出演者による、HIV陽性者やその周囲の人の書いた手記の朗読とその感想+カラオケ、情報提供、DJタイムと交流、コメンテーター制等
 日曜・祝日の17:00-20:00（3時間）入場料：500円（1ドリンク代）
 ※出入り自由。誰でもふらっと立ち寄れる。手話通訳付き

総来場者数：延べ2,275人、協力スタッフ延べ304人
 出演者：延べ711人、初来場者が61.9%
 来場者アンケート回答数：延べ735人



Living Together 2021

プログラムの目的：

- ・ HIVを自分の事として、身近に捉える機会を提供する
- ・ 陽性者の声を可視化して、スティグマを低減する。そして誰もが生きやすい環境をつくる
- ・ 自分の行動を振り返り、予防行動・検査行動へつながる

方法：

- ①陽性者や周囲の人が書いた手記集のアーカイブ化
 - ②手記リーディングのオンライン配信
 - ・ HIV陽性者や周囲の人が書いた手記のリーディング、HIVの最新情報の提供、LIVEやパフォーマンス等で構成
 - ・ それぞれ異なる背景をもつ多様なゲストが出演する
- 協力「Living Together計画」：多様性を伴った視点からすべての人がHIVとともに生きているというリアリティを共有するためのプロジェクト（ぶれいす東京とaktaが呼びかけ団体）

効果：

あらゆる地域から視聴可能なことで、より多くの人に届けることができる

New! オンラインリーディング

方法：司会1名、ゲスト1名 時間：約15分 合計視聴回数：919回（3月末）
 収録したものを編集し、後日aktaのYouTubeチャンネルで配信
 内容：ゲストがHIV陽性者やその周囲の人の手記を朗読し、感想を話す



WE'RE ALREADY LIVING TOGETHER.
 第1回ゲスト：そうしさん（LGBT英会話）



WE'RE ALREADY LIVING TOGETHER.
 第2回ゲスト：佐藤郁夫さん（ぶれいす東京）



WE'RE ALREADY LIVING TOGETHER.
 第3回ゲスト：じんぺえさん（東京都福祉保健局）



WE'RE ALREADY LIVING TOGETHER.
 第4回ゲスト：シゲ先生

New! オンライン配信LIVEショー

3月12日（金）19時～3月15日（月）9時まで
 aktaチャンネルでプレミア公開！ 視聴数：825回 ※ゲイメディアが協力
 方法：司会2名、朗読ゲスト2名、LIVEゲスト1名 時間：約45分
 収録したものを後日aktaのYouTubeチャンネルで期間限定で配信
 内容：ゲストがHIV陽性者やその周囲の人の手記を朗読し、感想を話す
 LIVEパフォーマンスによるショータイム



U=Uキャンペーン 2020

2020年

- ・1月 Prevention Access CampaignのBruce Richmanさんらが来日、医療者や行政、NPOなど市民社会と勉強会や意見交換会が行われた。
- ・3月『抗HIV治療ガイドライン』のなかで、「HIV診療にあたる医療者はU=Uについて患者に伝える必要があること」が言明される。



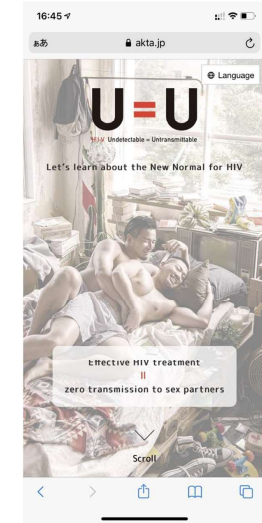
- U=Uのキャンペーンのメッセージと6つのポイントを、akta、日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラス、ぷれいす東京とともに制作
- 日本のコミュニティにおけるU=Uの課題にも触れる
- 「セックスとライフスタイルに関すること」だということを伝えるためのビジュアル
- 日本に住む外国人にも情報が伝わるように、多言語での情報提供



ぷれいす東京、JaNP+、aktaの連携キャンペーンとして展開

2020年11月~12月を中心にキャンペーン展開

- U=Uに関するポスター、パンフレットの制作
- 同内容のウェブサイト制作、6言語での展開
- HIV専門医、研究者とともにオンライン勉強会を実施



U=U Q&A factsheetの作成



U=Uキャンペーンのアウトリーチ・展開中に、様々な質問・疑問が寄せられた。U=Uに関するコンパクトで平易にまとめたQ&A集が必要とされた。英国のi-Baseによって2018年に制作されたファクトシートについて、コンタクトを取り、日本語翻訳と日本向けにリデザインを行った。

ウェブサイトを用いた啓発

岩橋恒太

akta YouTube チャンネル

動画を制作して、定期的にaktaの活動紹介とHIV・セクシュアルヘルスの情報発信を、YouTube aktaオフィシャルチャンネルから発信！

2019年11月1日スタート！
2020年4月1日～2021年3月31日
視聴回数**10,085回**（参考：2019年11月～2020年3月の視聴回数2,475回）
登録者数：**350人**（前年度より**164人増**）



主な動画コンテンツとトピック

<p>akta大学</p> <p>大学の講義形式で、トピックについてポイント解説を行う。</p>	<p>3分×3分</p> <p>aktaスタッフが、視聴者の疑問に3分以内に回答するコーナー。</p>	<p>資料紹介</p> <p>aktaが作成している資料等について、紹介するコーナー。</p>
---	--	--

2020年 HIVマップ 活動の柱

- COVID-19の流行および政府による緊急事態宣言の発出により、多くの保健所でのHIV検査機会や、各NPO等の相談サービスが一時休止、規模縮小。そのため厚生労働省に相談のもと、令和2年4月にHIVマップ上に**注意喚起のためのポップアップメッセージ**を公開。
- 新コンテンツ「**検査まるわかり情報局**」の制作
- 全国のMSMが利用しやすいHIV検査情報等の紹介ページの作成
- 内部充実、HIVマップのすべてのコンテンツの内容を最新情報に基づき大幅更新

— HIVマップ —

HIVの総合情報サイト www.hiv-map.net

<p>SP画面</p> <p>HIVお役立ちナビ 予防啓発/検査/治療/支援などを紹介するリソース集</p> <p>あんしんHIV検査サーチ 首都圏MSM向け検査情報提供</p> <p>HIV/エイズガイド HIVの基礎知識について、マンガとテキストで紹介</p> <p>H.POT 日本のHIVの基礎情報を対日外国人に11言語で紹介</p>	<p>PC画面</p>
---	-------------

検査まるわかり情報局と全国のHIV検査情報

HIV検査の新常識 8つのポイント

1. 検査を受けるタイミング
2. 検査を受ける場所
3. 検査を受ける方法
4. 検査を受ける際の注意点
5. 検査を受ける際の準備
6. 検査を受ける際の服装
7. 検査を受ける際の持ち物
8. 検査を受ける際の費用

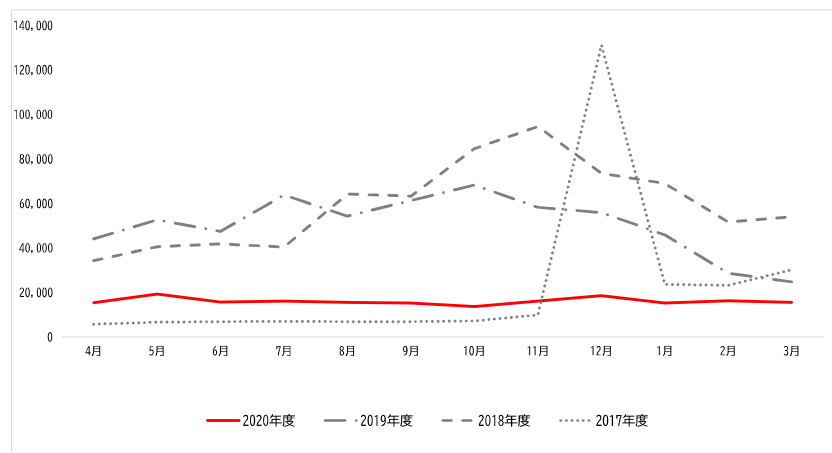
全国のHIV検査情報

全国のコミュニティセンターやMSM ALL JAPANプロジェクトに参加するNPOが運営する検査情報ウェブサイトと、全国にある特にMSMが利用しやすい特設検査施設情報を集約

「検査まるわかり情報局」は、「HIV検査の新常識 8つのポイント(最重要ポイント集)」、「なるほど検査Q&A(よくある質問集 16問)」、「検査用語集(37項目)」で構成

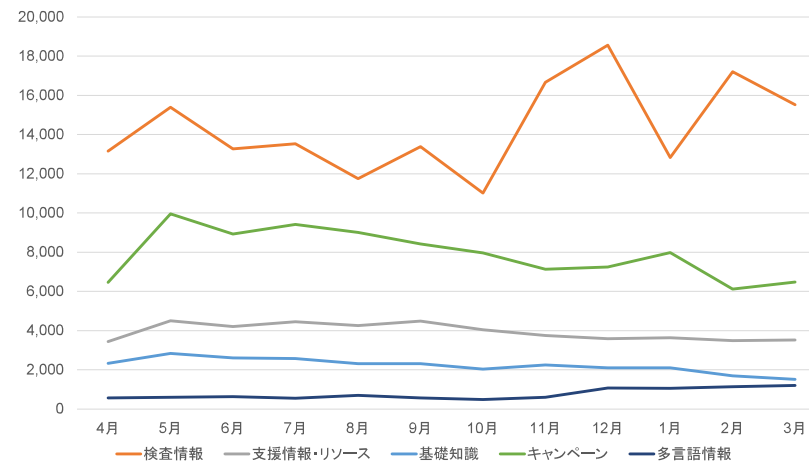
全国のコミュニティセンターやMSM ALL JAPANプロジェクトに参加するNPOが運営する検査情報ウェブサイトと、全国にある特にMSMが利用しやすい特設検査施設情報を集約

HIVマップ ユーザー数推移 (2017~2020年度比較)



2019年度に比べ、ユーザ数が68%減少した

HIVマップ 2020年度 コンテンツ別 アクセス数推移



年間を通じて、HIV検査情報ページのアクセス数が最も多い。
しかし、2020年1月以降アクセス数が大幅に減少。

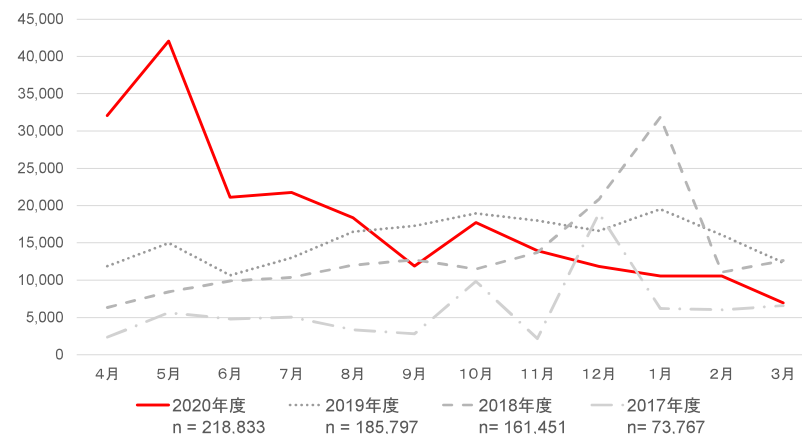
akta.jp ~ウェブ上でのaktaへの入り口



コミュニティセンターaktaとそのプログラムを紹介するサイト

- community center akta
- DELIVERY BOYS
- Living Togetherのご自慢
- デリヘルくんが聞く!突撃インタビュー!!
- HAVE A NICE SEX!
- 特定非営利活動法人akta
- **[NEW!]** コロナ支援情報
- **[NEW!]** ARCHIVE
- **[NEW!]** デジタルコンテンツ紹介

akta.jp ユーザー数推移 (2017~2020年度比較)



2019年度に比べ、ユーザ数が118%となった。
一方で、年度の後半で減少傾向にあった。

2020年度 akta.jp PV数 ベスト10

順位	コンテンツ名	ページビュー数	ページ別訪問数
1	特集記事 新型コロナウイルス感染症 vol.1 「ロックダウン中はヤリモクで人に会うのをひかえよう」	100,833	96,590
2	have a nice sex	58,006	52,213
3	Covid-19の支援情報	22,566	19,291
4	akta.jp トップページ	19,406	14,296
5	デリヘルくんが聞く 突撃インタビュー!!	13,498	10,829
6	新型コロナとセックス・HIV予防のアンケート	11,721	10,581
7	U=U 2020キャンペーンサイト	11,339	10,210
8	もっと自分のカラダのことを知ってみよう	8,466	8,104
9	コミュニティセンターakta紹介ページ	2,997	2,398
10	MSM ALL JAPANキャンペーンページ	2,897	2,570

41

HIV検査普及プログラムと行政連携

岩橋恒太

42

検査環境の整備と検査行動の促進

戦略研究終了後、2011年4月からの取り組み

MSM首都圏グループ（NPO法人ぶれいす東京+NPO法人akta）+ 厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」との連携による調査・効果評価の実施。



効果評価

厚生労働省エイズ対策政策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入方法の開発に関する研究」との連携による調査・効果評価の実施。

- ・MSMにおける啓発活動の広がりや把握するコミュニティでの質問紙調査

MSMを対象としたHIV検査普及・広報

- ・HIV検査普及のための資料の企画・制作
- ・首都圏地域のゲイ向け商業施設へのアウトリーチ

検査環境・相談支援の整備

- ・エイズ対策事業に関する意見交換会の開催
- ・HIV検査従事者に向けた研修会の実施（都県とMSM首都圏グループで実施）
- ・通常検査・臨時検査検査情報収集
- ・支援・相談情報提供 ウェブサイト：HIVマップ



43

連携による検査普及の課題

コロナの影響による保健所検査の停止

- ・東京都内の保健所は、一時、南新宿検査・相談室等の特設検査相談施設を除いて大半の保健所がHIV検査実施を中止・延期をした。

44

検査環境の整備と検査行動の促進 保健師（HIV検査担当者）研修会

東京都 東京都福祉保健局 健康安全室感染症対策課 エイズ対策係	神奈川県 神奈川県保健福祉局 健康医療部健康危機管理課 感染対策グループ	千葉県 千葉県保健福祉部 疾病対策課 感染対策室	埼玉県 埼玉県保健医療部 保健医療政策課 感染症・ 新型インフルエンザ対策担当
---	--	--	---

エイズ予防のための戦略研究(東京都はそれ以前よりぶれいす東京により実施)以降毎年実施されてきた保健師研修会が、COVID-19の影響により、**すべての地域で中止**。そのため、特に今年度はエイズ予防財団や保健医療科学院等での研修機会に積極的に講師として協力。

プログラム

コーディネーター：生島綱／ぶれいす東京

- ① 開催都県のHIV/エイズ対策の共有
- ② アイスブレイク
- ③ 陽性者の手記リーディング(HIVのリアリティの共有)
- ④ セクシャリティへの理解と求められる配慮
- ⑤ MSM検査の最新情報～HIV対策における検査の重要性～
- ⑥ 検査環境の取り組み事例の紹介と意見交換
- ⑦ セクシャリティに配慮した 模擬対応
- ⑧ 相談・支援に役立つリソース紹介/akta見学

アンケート

研修を通して…性的な話題への抵抗感を感じる人が少なくなった／身近にMSMがいる意識が高まる傾向が見られた／HIV陽性者の相談も他の相談者同様に対応する自信をつけた人が増えた／情報がアップデートされた

MSMへの理解を深め、MSMが安心して検査を受けられる環境整備

検査環境の整備と検査行動の促進

行政機関と連携した検査広報

東京都

東京都福祉保健局健康安全部

みなと保健所

各保健所の個別情報→ウェブサイト紹介
都の検査施設のみ紹介、4000部作成・配布

新橋あんしん検査

・昨年を上回る受検査者数となった



2020年度中止！

- ・埼玉県保健医療疾病対策課（HIV・梅毒日曜検査等の広報を年6回）
- ・草加保健所（MSM限定検査会）広報および相談員の派遣
- ・新宿区保健所 ゲイのためのエイズ・性感染症検査（年2回）

— 行政連携 —

行政機関と連携した検査広報：千葉県

プログラムの目的：ゲイ・バイセクシュアル男性があんしんして検査を受けられる環境を整備して、セクシュアリティに配慮した検査普及を行い、HIV感染の早期発見をし、エイズ発症により感染を知るケースを減少させる。

連携内容：ゲイに人気のアプリやネット媒体(9monsters、MENS NET JAPAN)にて、バナー広報を展開。セクシュアリティや地域性を考慮したイラスト、デザインでのバナー広報を展開した。

※今年度は新型コロナウイルス感染症の流行を受け、自治体による検査会が中止となり、実施のあった検査会の広報のみを行った。

実施日程と施設：

1.令和2年1月22日(日)浦和市民プラザWAVE101

帯バナー



※4月、6月、8月、1月は検査会中止となりました。

バナー広報：3週間掲載を行った



制作物：受検者に対して、不安をやわらげる電話相談や感染予防の情報サイトの紹介など、HIV/エイズに対する理解を深められるような啓発資料を作成・配布する。

- ・受検者が持ち帰れるA7サイズの情報カード
- ・コンドーム



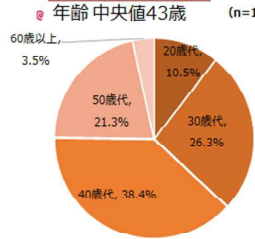
調査・研究

岩橋 恒太

MSM対象 新型コロナとHIV予防についてのアンケート 調査概要



- 調査目的
 - COVID19流行のもとでの、MSMにおける性行動、HIV検査受検行動等の予防行動、および新型コロナに関する意識を把握
- 調査実施期間
 - 2020年10月16日から26日の11日間
- リクルート方法
 - **首都圏居住のMSM限定**
 - MSM向けGPS機能付き出会い系アプリにバナーを掲載
 - 有効回答 1,713件
 - 本報告での分析対象 1,373件(MSMかつHIV陽性でない)



厚生労働省「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者 今村顕史), 「MSMのためのHIV検査相談環境の改善と受検支援に関する研究」(分担研究者 本間隆之)にて実施

調査の結果

検査行動 1

調査の結果

受検経験あり80.5% (n=1327)

経験	割合
あり	80.5%
ない	19.5%

Q23. 緊急事態宣言前(今年3月以前)は、HIV検査を定期的に受けていましたか

頻度	割合
6か月またはそれより短いペースで受けていた	19.2%
おおよそ1年に一度のペースで受けていた	24.2%
特にペースは決めていなかった	56.6%

最後に検査を受けた時期 (n=1068)

時期	割合
過去6か月以内	30.0%
6か月以上1年以内	18.9%
1年以上2年以内	21.1%
2年以上前	30.1%

最後に受検した場所 (n=1068)

場所	割合
保健所・保健センター	30.3%
病院、診療所、クリニック	30.3%
東京都南新宿検査・相談室	17.4%
イベントHIV検査会	5.3%
郵送検査	5.1%
HIVcheck.jp	3.1%
手術前・入院時の検査	2.7%
自己検査キット	2.1%
多摩地域検査・相談室	1.5%
その他	30.3%

検査の受検意図 (n=1327)

Q26. 緊急事態宣言後の半年間に、HIV検査を受けたいと思ったこと

意図	割合
ない	53.7%
ある	46.3%

検査ひかえの経験 (n=614)

Q27. 緊急事態宣言後の半年間に、新型コロナの感染予防のために、HIV検査を受けるのを控えたこと

経験	割合
ない	67.4%
ある	32.6%

検査行動 2

調査の結果

●受検できなかった21% (n=614)

Q28. 緊急事態宣言後(今年4月以降)の半年間に、受けようと思っていたHIV検査が新型コロナの影響で休止して、検査を受けられなかったことがありますか

回答	割合
ない	77.9%
受けようと思っていた保健所がHIV検査を休止していた	15.3%
受けようと思っていた病院や診療所がHIV検査を休止していた	5.9%
その他(具体的に)	3.3%

Q29. 保健所や病院のHIV検査が利用できなかった時、他のHIV検査を利用しましたか

方法	割合
4月以降は検査を受けていない	61.0%
他の地域の保健所・保健センターを利用	5.1%
他の病院、診療所、クリニックを利用	8.1%
東京都南新宿検査・相談室を利用	8.8%
東京都多摩地域検査・相談室を利用	0.0%
献血を利用	1.5%
郵送検査を利用	1.5%
自己検査キットを利用	1.5%
イベントHIV検査会を利用	4.4%
その他	8.1%

理由:

- 再開してからもともと検査予定だった施設で検査した
- 電話で問い合わせ、検査してもらった
- 時期をずらして受診した
- SH外来
- 検査をしなかった
- 延期した

コミュニティ向け報告ウェブサイトの公開を開始 <https://akta.jp/cov19fb/>

COVID-19のインパクトのなかでのMSMへの検査普及の取り組み

COVID-19 流行時のMSM向け検査戦略

- 保健所検査はMSMの受検機会として依然として重要。しかし、コロナ対応で検査自体を止まってしまう
 - 利便性で課題、対面回避するMSMに届きにくい
- ↓
- 従来の保健所検査以外にも検査機会の確保が重要
 - 民間医療(クリニック)や郵送検査の活用が有効

- 効果的な展開のために
- NPOが、MSM向けスマホアプリ広告を使い、企画、発信、広域に展開
 - 初めから行政と連携を前提とした展開
 - 地域の医療のキーパーソンと連携して、クリニック連携を広げる

「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入に関する研究」(研究代表者 塩野徳史)

akta ゆうそう検査 2020



厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「MSMに対する有効なHIV検査提供とハイリスク層への介入に関する研究」の研究として検査を実施

新たな取組み

- 梅毒TP抗体検査を実施
- COVID-19の流行を受け、受け取りをウェブシステムを用いた予約制、説明をなるべくコンパクト化
- 検査会社に検査を委託し、結果告知や情報提供について意見交換
- 確認検査受入機関として、行政の他、東京都内15の医療機関と連携

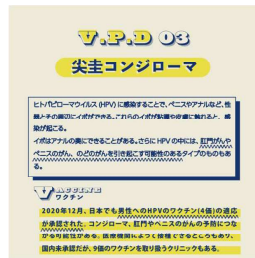
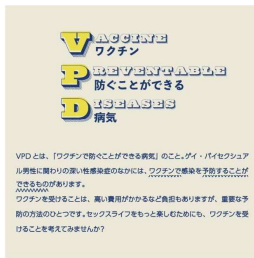
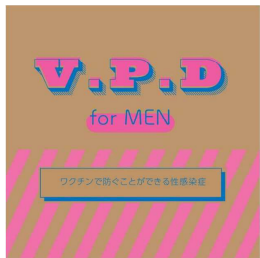
キットはスタッフから手渡しで配布。受検者は自己採血キットにより指先より採取した血液をろ紙にしみこませ、検体を郵送で検査会社に送付、スクリーニング検査結果を専用webサイトで確認する。2021年2~3月にトライアル実施。

COVID-19のインパクトのなかでのMSMへの検査普及の取り組み

- 2020年度MSM ALL JAPANチームに参加する、北海道、東北(コミュニティセンターZEL)、東京(コミュニティセンターakta)、神奈川、愛知(コミュニティセンターrise)、大阪(コミュニティセンターdista)、瀬戸内、福岡(コミュニティセンターHACO)、沖縄(コミュニティセンターmabui)の全国9地域で、MSM向けHIV・梅毒郵送検査キットプロジェクト「ゆうそう検査」を開始。



V.P.D for MEN ワクチンで防ぐことができる性感染症



MSMに向けてV.P.D(ワクチンで防ぐことができる性感染症)のコンセプトを伝える目的で、病態の基本情報、ワクチンの接種方法、費用のおおよその値段を説明。A型肝炎、B型肝炎、尖圭コンジローマを中心に紹介。

2019年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」にて作成

MSMを対象とした梅毒の注意喚起



MSMの間での梅毒の流行および梅毒検査の普及啓発に際して、改めて梅毒の注意喚起を行うキャンペーンを実施。2015年に展開したキャンペーンを、情報をアップデートしてリバイバル。厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業「HIV検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」にて制作。



新型コロナウイルス感染症の影響を受けたaktaの活動のまとめ

木南拓也、岩橋恒太

57

令和2年度の計画と実施

新型コロナウイルス感染症の流行を受け、計画通りのプログラム実施ができなかった。以下「実施できたもの」「できなかったもの」「新たに立ち上げたもの」に分類。

プロジェクト	実施できたもの	実施できなかったもの	新たに立ち上げたもの
センター	<ul style="list-style-type: none"> 制限を設けての開館 展覧会、一部スペース貸し出し センター周知パンフレットの作成 内部研修(相談対応) 	<ul style="list-style-type: none"> akta café 人を集めてのイベント企画 専門家相談会(年6回) スペースの貸し出し(一般) 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症対策 他団体との意見交換会 moyamoya相談会 LINE公式の開設(akta利用者用)
アウトリーチ	<ul style="list-style-type: none"> デリバリーボックス 発送作業 	<ul style="list-style-type: none"> アダルトデリバリー デリバリーキットの作成 人を集めての勉強会 ボランティア募集 	<ul style="list-style-type: none"> デリヘルHR オンライン勉強会 LINE公式の開設(アウトリーチ用)
予防・促進	<ul style="list-style-type: none"> Condom制作 	<ul style="list-style-type: none"> 予防のための資材(全4種) 	<ul style="list-style-type: none"> U=Uファクトシートの作成
検査・広報	<ul style="list-style-type: none"> aktaゆうそう検査 インタビュー集の作成 monthlyの発行 	<ul style="list-style-type: none"> 緊急事態宣言中の資材印刷(monthly4月~7月まで) 	<ul style="list-style-type: none"> クリニックとの連携
ウェブ	<ul style="list-style-type: none"> akta.jp aktaYouTubeチャンネル アーカイブ 	<ul style="list-style-type: none"> YouTube大型企画 	<ul style="list-style-type: none"> インスタグラム再スタート ウェブコンテンツ紹介ページの作成
研究・行政連携	<ul style="list-style-type: none"> 各研究協力、意見交換 検査広報(港区、千葉県) 東京都検査紹介資料の制作 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査 保健師研修会(首都圏1都3県) 検査広報(新宿区、埼玉) 	<ul style="list-style-type: none"> オンラインTalk Show オンラインリーディング オンラインLIVEショー
その他	<ul style="list-style-type: none"> TOKYO AIDS WEEKS 2020への参加 	<ul style="list-style-type: none"> 各種ブース出展(パレード、NLGR、エイズ学会) 	<ul style="list-style-type: none"> エイズ学会パネル展示 新型コロナウイルス感染症プログラム

58

新宿二丁目でのCOVID19対策①

2020年3月末

- 東京都が週末外出自粛要請を发出
- 新宿二丁目働く人たちの希望者を集めた緊急会議を実施
- 情報交換用のLINEグループを立ち上げ
- コーディネーターを新宿二丁目振興会会長担当

4月~6月

- 政府が緊急事態宣言を发出(4月7日)
- 営業自粛・休業をする飲食店の事業者に対する補填を求める署名活動
- 営業再開に向けて、二丁目のお店の形態・実態にある
- 予防対策ガイドラインが共有され、各店で対策が進められる
- LINEグループにて予防対策の実践例等の情報共有や相談→家賃補助に関する勉強会・相談会を実施

7月

- お店とNGOが連携する、新宿二丁目COVID19対策ネットワークを組織(事務局 akta)
- 感染者発生時のお店の対応のための勉強会を実施
- 新宿二丁目働く人を対象としたCOVID19に関するアンケート実施



LGBT理解増進会 作成、ヘルスプロモーション推進センター 協力



感染者発生時の対応のためのバー関係者向け勉強会

59

新宿二丁目でのCOVID19対策②

9月

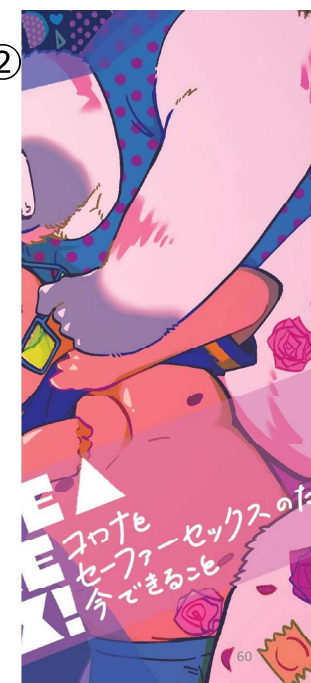
- 「コロナとセーフターセックスのために今できること」のパンフレット作成・配布
- 新型コロナウイルス感染症対策分科会「大都市の歓楽街における感染拡大防止対策ワーキンググループ」にて、コミュニティセンターaktaでのHIV対策の取り組みおよび新宿二丁目でのCOVID19対策の発表

10月

- 新型コロナウイルス感染症対策分科会「偏見・差別とプライバシーに関するワーキンググループ」に意見書の提出

11月

- 新宿二丁目、新宿区保健所との共催で新型コロナウイルス感染症に関する勉強会・意見交換会を実施
- 新型コロナとHIV予防についてのアンケートを実施



60

閉会の辞

木南 拓也

